

日本非開削技術協会会長 就任にあたって



森田 弘昭

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

会員の皆様こんにちは。

本年6月の通常総会で安中徳二前会長の後任として第4代の会長に選任されました。大役で身の引き締まる思いですが前会長に変わらぬご支持をよろしくお願い致します。

私は、昭和58年に建設省に入省し、在職期間の3分の2を行政職、残りの期間を研究職として務めました。平成27年4月から日本大学生産工学部土木工学科で都市計画や環境工学を教えています。国交省在職中に管渠関係の仕事として愛知県半田市の雨水管の維持管理現場で発生した硫化水素事故の原因究明やディスポーザー導入による管渠への影響評価、不明水調査手法の研究、ベトナム国への推進工法導入などに取り組みました。私自身の立場や取り組み内容は変わりましたが、いずれも今も継続して関与しています。また平成28年度から日本管路更生工法品質確保協会の理事と試験部会長を務めています。

勝手ですが、第4代会長就任にあたり一言私の思いを述べさせていただきます。

平成15年に策定された『美しい国づくり政策大綱』や平成27年に発足した『インフラメンテナンス国民会議』は、地域の景観形成に配慮したインフラ整備や、老朽化したインフラの効率的なメンテナンスというインフラ整備が抱える課題にあらゆる主体が協力して取り組もうという、成熟した日本が進むべき道を示しています。これはインフラの機能発揮のためだからそのメンテナンス作業に伴う一時的な支障や不便は我

慢しようということではなく、常に優雅で環境に優しいメンテナンスが求められていることだと思います。

また我が国のインフラ整備は、戦後の復興や高度経済成長のために整備に重点が置かれ、その後に長く続くメンテナンスに対する配慮が十分ではなかったと思います。現在東南アジアをはじめとする発展途上国では数十年前の我が国と同じようなインフラ整備の道を歩み始めています。インフラ整備の先輩としてこれらの国々対してもメンテナンスに配慮したインフラ整備の重要性を伝えるべきと考えています。このような観点から既存の地下インフラを効率的に守る非開削技術の有益性がより注目を浴びてくるものと考えています。現在そして未来の社会が必要とする非開削技術の一層の進化と普及に熱意を持って取り組みたいと考えています。

近年の激甚な自然災害に対する防災・減災インフラの整備は、何ものにも代えがたい人命を守るという観点から必要なものですが、これまで整備してきたさまざまなインフラが果たしてきた質の高い快適な国民生活を守るという役目をこれからも果たしていくためにはこれらのインフラの効率的なメンテナンスが必要不可欠です。一方で、インフラのメンテナンス技術の需要に対する人材の供給体制や教育体制は各方面とも緒に就いたばかりと思われれます。日本再興戦略2016の五つの施策の中に『海外の成長市場の取り込み』が掲げられています。非開削技術は、まさにこの成長市場に投入すべき成長性のある技術だと考えられます。こ

のように非開削技術の需要は量的にも国民生活の快適性の維持という質の観点からもこれからの社会に必要な技術であり、市場のニーズに対応した技術の提供のためには産官学の緊密な連携による効果的な活動が必要と考えています。

非開削技術を取り巻く現状と課題を踏まえて私は三つの取り組みに力を注ぎたいと考えています。

一つ目は人材の確保。既にこの業界で活躍している技術者の能力アップも必要ですが、業界に新たに人材を招き入れることも重要だと思います。私の大学では、管路のメンテナンスの重要性を説明し、その技術を実体験できる『管路更生大学』を設置しました。こうした取り組みに当協会も参加して非開削技術の素晴らしさや必要性を次世代を担う若者たちに伝えたいと考えています。

二つ目は、非開削技術の海外展開です。平成21年度に産官学が連携して海外展開を進めるための下水道グローバルセンター（GCUS）が設立されましたが、この組織の中に設置されたベトナム委員会では推進工

法のベトナム版技術基準を策定し、これをベースに日本の推進工法の普及を図っています。今後は、GCUSなどの海外展開関係団体と連携しながら、海外情報を会員企業に提供するとともに海外のニーズを会員企業にお知らせしたいと思います。海外では、上水道やガスなどさまざまな生活インフラの整備において非開削技術が注目されています。海外の非開削技術関連団体との連携を進めるとともに、国内では下水道以外のインフラ整備に携わる団体とも連携し、国内外での技術の相互の普及を図りたいと考えています。

三つめは、技術の向上、普及に向けた取り組みですが、当協会が実施している非開削技術研究発表会や工法ナビゲーションシステムなどの情報発信ツールを通じて、会員が開発した技術を説明すると同時に、世の中にあるニーズやシーズを会員に紹介していく活動をより充実させていきたいと考えています。

最後に非開削技術の発展と普及のためにこれまでと同様に会員の皆様方の積極的なご支援とご協力をお願いして筆を置きたいと思います。

